

## 震災復興と

## 心に希望のまちづくり



神崎町長 石橋 輝 一

新年あけましておめでとう  
とございます。

昨年3月11日の東日本  
大震災で当町も液状化現  
象により住宅、道路、排  
水施設、更には農地や神  
崎大橋の橋脚損壊による  
長期の通行止め等甚大な  
打撃を受けました。

平穏な生活が一瞬にし  
て急変、不便を余儀なく  
された被害に遭われた多  
くの町民の方々に心から  
のお見舞いを申し上げます。  
福島原発事故による放  
射線漏れやヨーロッパ金  
融不安による世界経済不

安定化の増幅等、国民生  
活を脅かすことが相次ぎ、  
大変混乱した1年であり  
ました。

被害を受けた公共施設  
のうち、ライフラインに  
直結する修復工事には、  
いち早く着手し、神宿浄  
水場に関わるものを除き  
3月末までには完了する  
運びであります。

神崎大橋の工事につい  
ては、千葉県が行ってお  
りますが、昨年の12月に  
暫定的に開通し、完全復  
旧は5月になる見込みで  
あります。

また、神宿浄水場の移  
転復旧は平成24年度に詳  
細設計を行い、約3年計  
画をもって工事を実施し、  
安全安心な飲料水を1日  
も早く安定供給できるよ  
う最善を尽くして進めて

まいります。

さて、本町のまちづく  
りであります。昨年3  
月に策定した第4次総合  
計画で示したように「発  
酵の里、健康笑顔のまち  
こうざき」を提唱し、

みんなで創る「健康産業、  
子育て応援、安全・安心、  
参画と協働」のまちを目  
指して実践してまいります。

地元の2大酒蔵を中心  
に開催される「酒蔵祭」  
は広く内外に知れ渡り、  
今や関東一の蔵祭りに定  
着し、着実に町の活性化  
に大きく寄与していただ  
いております。

町特産品の開発育成に  
は商工会と共に協力して  
研究し、本町の基幹産業  
である農業生産物の6次  
産業化に向けても「発酵」  
をテーマに商品開発を推

進したいと考えております。

これら開発商品は圏央道  
神崎インターチェンジに  
隣接して建設計画してい  
る道の駅で販売できるよ  
う官民一体となって取り  
組んでまいります。

少子高齢化問題は、町  
の活性化対策では、避け  
ては通れない重要な課題  
であります。

少子化対策では、婚活・  
保育子育て・学校教育の  
充実に努め、高齢者に対  
しましては、まちの主役  
として毎日を明るく元気  
に暮らせるような環境作  
りを目指すことが行政の  
役割であると考えています。

今年、本町が取り組む  
主な事業といたしましては、  
まずは、液状化被害の復  
旧工事と長年の念願であ  
った町道武田古原線の全  
線開通を本年3月を目処  
に進めてまいります。

町道並木根岸線道路改  
良事業については用地確  
保をし、工事に着手する

計画であります。また、

仮称県道成田神崎線であ  
りますが、この路線は整  
備促進期成同盟発足以来  
35年が経過し、千葉県の  
ご支援と成田市のご理解  
をいただき市町村道として、  
ようやく着手する運びと  
なりました。この道路は

県道郡停車場大須賀線と  
県道成田下総線を結び、  
通勤はもとより緊急車両  
等の大幅な時間短縮となり、  
産業道路としても神崎町  
の大動脈となることであり、  
成田市との共同作業とし  
て用地買収等本格的にス  
タートします。

さらに、圏央道神崎イ  
ンターチェンジに隣接し  
計画されている道の駅用  
地買収や、道の駅予定地  
に繋がる道路の整備に着  
手する計画であります。

以上、念頭に当たって  
所感を述べましたが、あ  
る冊子に「国が本当に衰  
えるのは、所得の低下に  
よってではない、精神の